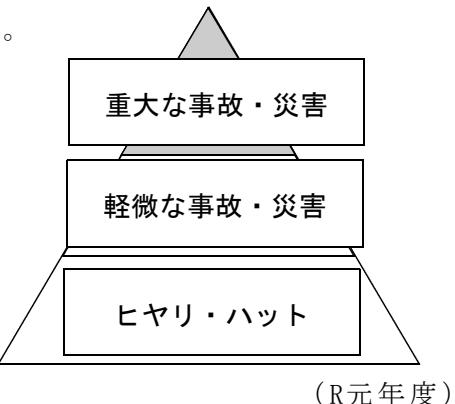


中学校保体 専門問題例

例 1 右の図について、次の(1)・(2)の問い合わせに答えなさい。

- (1) この図は、事故と災害の関係を示す法則を表したものである。法則を導き出した人物の名前をとって、何の法則と呼ばれているか、答えなさい。
- (2) この法則から、重大な事故・災害を防ぐためには、どのようなことが必要だと考えられるか、答えなさい。



例 2 次の(ア)～(ク)にあてはまる語句を答えなさい。(同じ記号には、同じ語句が入るものとする。)

- (1) (ア)は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標である。単位は気温と同じ摂氏度(℃)で示されるが、その値は気温とは異なる。(ア)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい(イ)、日射・(ウ)など周辺の熱環境、(エ)の3つを取り入れた指標である。
- (2) 暑いときにかく汗のことを(オ)といい、恐怖・緊張・興奮など精神的な理由でかく汗のことを(カ)という。
- (3) 捻挫や打撲の手当は、安静・冷却・(キ)・(ク)を基本に進める。

(R元年度)

例 3 バスケットボールにおいて、次の(1)～(4)は何というファールになるか、答えなさい。

- (1) ボールを持っていてもいなくても、無理に進行して相手チームのプレーヤーのトルソー(胴体)に突き当たったり押しのけたりする不当な体の触れ合いのこと。
- (2) 相手チームのプレーヤーがボールを持っていてもいなくても、手や体で相手を無理に押しのけたり押して動かそうとしたりする不当な体の触れ合いのこと。
- (3) 相手プレーヤーの自由な動き(フリーダムオブムーブメント)を妨げる不当な体の触れ合いのこと。この体の触れ合い(押されること)はどの部分を使っていてもファールになる。
- (4) 相手がボールを持っているかいないかにかかわらず、相手チームのプレーヤーの進行を妨げる不当な体の触れ合いのこと。

(R2年度)

例 4 バスケットボールの試合で、次の(1)・(2)のような状況が見られた。その対処法として、生徒にどのようなアドバイスが適切か、それぞれ答えなさい。

- (1) ボール保持者がボールを奪われる。
- (2) 相手にパスカットされて、パスがうまくつながらない。

(R2年度)

例 5 中学校学習指導要領「第 2 章 各教科」「第 7 節 保健体育」について、次の(1)～(3)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 次の文は、「第 2 各学年の目標及び内容」〔体育分野 第 1 学年及び第 2 学年〕「2 内容」「E 球技」の一部である。(①)～(⑦) にあてはまる語句を答えなさい。(同じ番号には、同じ語句が入るものとする。)

ア (①) では、(②) と (③) に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。
イ (④) では、ボールや (⑤) の操作と (⑥) に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。
ウ (⑦) では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、(②) と (⑥) での守備などによって攻防をすること。

- (2) 次の文は、「第 2 各学年の目標及び内容」〔保健分野〕「1 目標」である。
(①)～(⑥) にあてはまる語句を答えなさい。

- (1) 個人生活における (①) について理解するとともに、基本的な (②) を身に付けるようする。
(2) 健康についての (③) を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、(④) に伝える力を養う。
(3) (⑤) を通じて心身の健康の保持増進を目指し、(⑥) 生活を営む態度を養う。

- (3) 次の文は、「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」「2 第 2 の内容の取扱い」については、次の事項に配慮するものとする。」の一部である。(①)～(⑫) にあてはまる語句を答えなさい。(同じ番号には、同じ語句が入るものとする。)

- (1) 体力や技能の程度、(①) や (②) の有無等に関わらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるよう留意すること。
(2) (③) 能力を育成する (③) 活動を重視し、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、(④) や論理的な思考力の育成を促し、(⑤) な学習活動の充実を図ること。
(3) 第 2 の内容の指導に当たっては、コンピュータや (⑥) などの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること。
(4) 体育分野における (⑦) との多様な関わり方や保健分野の指導については、具体的な (⑧) を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。
(5) 生徒が (⑨) を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、(⑨) の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教師間の協力的な指導などを (⑩) し、個に応じた指導の充実が図られるよう留意すること。
(6) 第 1 章総則の第 1 の 2 の (3) に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、(⑪) の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。なお、体力の測定については、計画的に実施し、運動の指導及び体力の向上に活用すること。
(7) 体育分野と保健分野で示された内容については、(⑫) の関連が図られるよう留意すること。

(R3 年度)

例 6 次の(1)～(8)の問い合わせに答えなさい。

- (1) 講道館柔道の創設者であり、アジアで最初の国際オリンピック委員会委員となり、スポーツによる世界平和の運動を日本に定着させた人物名を、答えなさい。
- (2) 剣道の試合は、立礼をして開始線まで進み、蹲踞の姿勢で竹刀を合わせ、主審の何という宣告で試合を開始するか、答えなさい。
- (3) トレーニングによって体力を向上させるためには、それまでに行っていた運動より強度が高い運動を行う必要がある。この原理を何というか、答えなさい。
- (4) 体操競技や陸上競技などの、競争相手から直接影響を受けることが少なく、安定した環境のなかで用いられる技術を何というか、答えなさい。
- (5) ジャックボールという的に向かってボールを6球ずつ投げ、いかに的に近づけるかを競うスポーツを何というか、答えなさい。
- (6) 30チームがトーナメント戦を行う場合、1回戦から出場したとして、何試合勝てば優勝できるか、答えなさい。
- (7) 30チームがトーナメント戦を行う場合の総試合数と、8チームがリーグ戦を1試合ずつ行う場合の総試合数では、どちらの総試合数が多いか、答えなさい。)
- (8) 次のア～エを、左から高い順に並び替えなさい。(高さは一般用とする。)
ア ラグビーのゴールのクロスバー（上端部）の高さ
イ バスケットボールのリング（上端部）の高さ
ウ バドミントンのネット（中央上端部）の高さ
エ サッカーのゴールのクロスバー（下端部）の高さ

(R3年度)

中学校保体 正答例

問題番号			正 答 例	
例 1	(1)		ハイシリッヒ	の法則
	(2)		(正答例) 日々のヒヤリ・ハットを減らすことが、重大な事故・災害を防ぐ事につながる。	
例 2	(1)	ア	WBGT	(暑さ指数)
		イ	湿度	(気温)
		ウ	輻射	
		エ	気温	(湿度)
	(2)	オ	温熱性発汗	
		カ	精神性発汗	
	(3)	キ	圧迫	
		ク	拳上	
例 3	(1)		チャージング	
	(2)		プッシング	
	(3)		ホールディング	
	(4)		ブロックинг	
例 4	(1)		(正答例) ボール保持者は、ピボットしてボールと相手との間に体を入れる。	
	(2)		(正答例) パスを受ける側は止まって受けるのでなく、動いてもらう。パスする側は、止まっている味方にパスするのでなく、動いて捕れる位置にパスする。	
例 5	(1)	①	ゴール型	
		②	ボール操作	
		③	空間	
		④	ネット型	
		⑤	用具	
		⑥	定位置	
		⑦	ベースボール型	

例 5	(2)	① 健康・安全
		② 技能
		③ 自他の課題
		④ 他者
		⑤ 生涯
		⑥ 明るく豊かな
	(3)	① 性別
		② 障害
		③ 言語
		④ コミュニケーション能力
		⑤ 自主的
		⑥ 情報通信ネットワーク
		⑦ スポーツ
		⑧ 体験
		⑨ 学習内容
		⑩ 工夫改善
		⑪ 運動部
		⑫ 相互
例 6	(1)	嘉納治五郎
	(2)	始め
	(3)	オーバーロードの原理（原則）
	(4)	クローズドスキル
	(5)	ボッチャ
	(6)	5回
	(7)	30チームのトーナメント戦
	(8)	イ → ア → エ → ウ